

「農業の不易と流行」

校長 阿 部 孝

今年度、本校の大きな話題の一つとして「全国農業担い手サミット」のために来県された皇太子さまが本校を訪問されたことがあげられます。これは、皆さんが、授業や実習をとおして農業の基礎・基本を学び、さらには応用・発展力を培って、農業はもとより地域産業への担い手として期待されているからです。折しも、今年5月には皇太子さまが次の天皇に即位され、平成から次の時代へと変わる歴史的に節目を迎える時ですので、長い人生の中でもなかなか経験できない本当に貴重な機会に恵まれたと思います。当日は、3年生の皆さんが行うシクラメンの栽培実習（施設園芸）とヨーグルト製造の実習（食品製造）の様子を御視察いただきました。皇太子さまは、授業で実習する皆さん一人ひとりに優しい眼差しで穏やかに声をかけられていましたが、そのお言葉に対して堂々との的確に説明する皆さんの姿を見まして大変頼もしく思ったところです。

さて、松尾芭蕉が「奥の細道」を旅する中で体得した概念で、「不易と流行」という言葉があります。「不易」は、どんなに世の中が変わっても変わらないもの、変えてはいけないもの、「流行」とは世の中の変化とともに変わっていくもの、進化していくものという意味です。その「不易と流行」を農業について当てはめるとどうなるでしょうか。

私たちにとって何よりも代えがたく最も大切なものは心身の健康です。その源となるのが毎日の食事であり、それを支えるのは主食の米をはじめ、肉、野菜など食物を育てる農業に他ありません。どんなに時代が変わってもその営みは変わることなく、先人から受け継いできた農業そのものが、「不易」なのです。

一方食物は、我々の口に直接入るものですので安心・安全が絶対条件で、「さらに美味しく、栄養価が高く、体に良いものを」と追求していくことも農業の醍醐味です。また、農業は地域の産業として生産性を高め安定した収益も求められます。そのため時代の変化とともに良質の作物ができるよう品種改良などが行われてきました。すなわち、農業の「流行」です。先人から受け継いだ知恵や実績のもと、その時々課題解決に向けて試行錯誤を繰り返し、進化を遂げてきたのです。これは正しくプロジェクトをはじめとする農業クラブ活動にも反映されていると思います。クラブが目指す「科学性」「社会性」「指導性」を追究し、先輩から後輩へと繋ぎ、時代の変化に対応してきたのです。

これから人口減少社会やグローバル化、人工知能の進歩など、予測が難しい時代を迎えます。皆さんには、農業クラブ活動で培った探究の精神を忘れず、そして「農業の不易と流行」を大切にして、地域の発展に寄与する人材として活躍することを期待いたします。